

善永寺の歴史探究シリーズ

第2回 善永寺享保地蔵

善永寺住職 高輪真澄

はじめに

善永寺にはいくつかの寺宝といわれるものや、古い仏像、絵画などがあります。それをこれから紹介していきます。一番古いものは「本尊阿弥陀如来立像」です。大田区の文化財に指定されています。これについては後ほど解説させていただきます。

今回は一番古いと思われる石仏を紹介します。

石仏「舟形地蔵菩薩」

現在善永寺庭園の築山の上に安置しているものです。私が子どもの頃からここにあり、庭を走り回る子どもたちを山の上から見てくださっています。

大きさは、高さ 380mm、横 250mm

石材は安山岩。

形状は舟形浮き出し半肉彫り。両手で宝珠を持っている地蔵菩薩立像です。

そして菩薩像の右に「早世 釈教春童子」左側に「享保十七壬子 正月朔日」と深く彫られ、その文字のうへに右は「了讚」左に「享保十九寅 正月卅」と浅く彫られています。

地蔵信仰は日本では信者の苦を代わって受ける地蔵の性格から、身代わり地蔵のような信仰や、子どもを救う信仰へと広がっていった。現在でも「子安地蔵」とか「水子地蔵」があります。また子どもたちの夏祭りの一つとして「地蔵盆」が行われる地域もあります。「宝珠」とは如意宝珠のことで、意のままに願いを叶える宝の珠と考えられ、地蔵菩薩、虚空蔵菩薩、如意輪観音などの持物です。

浄土真宗では、阿弥陀如来によってすべての人は「極楽浄土」へ往生させていただくので、お地蔵さんへ頼ることは必要ありません。ただこの時は施主の方が頼りたかったのでしょう。

ここに法名が彫刻されています。「早世」とは早くなくなったという意味でしょう。「釈教春童子、了讚」ともに浄土真宗の法名と思われます。「童子」は「居士・大姉・信士・信女」など「位号」といわれ、この頃は一部ついています。現在は元々の浄土真宗に戻って区別をなくしていこうということで、位号はついていません。



享保17年は西暦で1732年。江戸時代中期で、徳川吉宗が享保の改革を行っていた頃です。また了讚が後からこの石像に浅く手彫りで彫られていることから、教春がなくなられてすぐにまず作られ、その後了讚が書き加えられたと思われます。この石仏の製作年は享保17-18年と考えられます。ですから290年ほどたっている石仏です。

では、この刻まれたお子さんは誰だったのでしょうか。善永寺には貞享年間より書き続けられた過去帳が現存します。ただ現在残っているものは幕末に書かれた写しです。江戸時代は多くの火事によりお寺は火災に遭いました。そのたびに仏像や大切な書類を持ち出して今に伝えています。その中には燃えてしまい、思い出したり他の記録から復旧したものも多くあるようです。享保17から19年にかけて過去帳にはこの兩名の記載はありませんでした。ただこの石仏は関東大震災後の善永寺の六郷移転と一緒に来られていると思われますので。大切な石仏なのです。